

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 令和2年度学校評価委員会報告書

当初、令和3年5月の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から対面形式の委員会開催を中止し、Zoom ミーティング形式にて実施した。また、各委員には事前に下記資料を郵送し、各委員からの意見が短時間で確認できるように配慮を行った。

〈配布資料〉

- ・ 令和2年度学校自己評価報告書
- ・ 資料1 令和3年3月 第67回臨床検査技師国家試験結果
- ・ 資料2 令和2年度 就職・進学先一覧
- ・ 資料3 令和2年度入学試験結果

1. 日 時 令和3年6月15日（水）19：30～20：10
2. 場 所 久留米大学教育2号館1階教務事務室
(新型コロナ感染対策のため委員会はZoom ミーティング形式で開催)
3. 出席者 真茅 孝志委員 純真学園大学保健医療学部医療工学科（教授）
浮池 俊憲委員 卒業生代表
熊谷 幸 委員 保護者代表
- 西 昭徳 校長
武谷 三恵 教務主任
中島 俊弘 医学部事務部専門学校事務室 事務室長

4. 次 第

- (1) 校長挨拶
- (2) 報告書説明
教務主任から評価に変更があった部分を主に説明。

(3) 質疑応答（主な意見交換）

- ・ (3) 教育活動について

b コロナの感染拡大の影響で出校停止期間中はeLearningプラットフォーム(Moodle)を利用し、遠隔授業(オンデマンド形式)を実施した経緯を説明。対面授業の再開にあたっては感染リスク軽減に努め、出校停止とそれに伴う遠隔授業期間を最低限に抑えることができたことなどを報告。

また、3年次の臨地実習は、学外では実施できなかったが、久留米大学病院臨床検査部と病院病理部・病理診断科の協力を得て6月～7月の27日間、実習期間が確保できたことなどを報告。

なお、令和2年度末に学生アンケートを実施したところ、全学年

から、遠隔配信システムは対面授業の有無に関わらず、能動的な学修に役に立つと継続を望む意見が挙がったため、次年度は感染防止対策のレベルに関わらず、講義については遠隔配信を実施する方針としたことも併せて報告。

e 職業教育に対する外部関係者からの評価は、昨年度の評価は2であったが、令和2年度から校長及び外部関係者から構成される学校評価委員会を毎年開催することを定め、実施することとしたため評価を3としたことを説明。

・ (5) 学生支援について

a 進路・就職に関する支援体制については、求人情報を電子化しMoodleに掲載したので、学生は来校しなくても求人情報を閲覧しダウンロードできるようになり学生の利便性が格段に向上したことを理由として評価を4に上方修正したことを説明。

e コロナ禍であったため、例年春期に行っている保護者の会総会と希望者による個人面談を中止したこともあり、保護者との連携が十分とは言えない面が否めず評価を3に下方修正したことを説明。

ただし、保護者の会役員会についてはオンラインで開催し、学生の教育、施設運営、その他必要と認めた諸活動についての理解を得ることはできたことを説明。

また、コロナ禍で数々のイベントが中止されたことから、保護者の会からの補助にも未執行の予算が多かったことから学生一人当たり5千円の返還を実施したことなども報告。

・ (10) 社会貢献・地域貢献について

a. b. コロナ禍で多くのイベントが中止を余儀なくされ、毎年実施していたボランティア活動も例年ほど活発にはできなかった。また、学校の方針として感染対策の一環で学生のアルバイトを原則中止としたこともあり、実績が伴わないことから評価をやむを得ず下げた経緯を説明。

委員の一人からは、自分の職場においてもコロナ禍で講義の実施に懸命で、社会貢献・地域貢献についての計画も立てられなかったことからやむを得ないのではという意見が出された。これに対し、今後は夏季休暇期間の活用なども視野に入れながら、コロナ禍においてもやれる社会貢献・地域貢献なども検討していきたいと西校長から説明。

以上の結果を踏まえ、今回の質疑応答で指摘された点を修正し、学校評価委員会としての報告として公開することについて、委員の了承が得られた。